

「文系科目の試験対策法」

東京大学経済学部 黒澤 航大

まず、【試験に臨む上での心構え】に関して心がけていたことを簡単に述べたいと思います。
ポイントは以下の二つです。

- ・ 反復
- ・ 集中

何のひねりもなく、そのまんまの意味です。

「同じことを何度も繰り返す」・「やると決めたときは1つのことに全力で集中する」

この2つを意識しながら試験勉強に臨むだけでも、変わってくることはあると思います。

続けて、教科ごとにざっくりと試験対策方法について述べていきます。

【英語】

最低限やっていたこととしては、試験範囲の文法問題集や教科書の長文を、試験までに3周するという事です。
3週という数字は自分にとって一番覚えられる数字だったのですが、ここは人によってはもっと回数を増やす必要のある人や、逆に少なくとも覚えられる人もいます。

【現代文】

現代文の試験は、学校にもよりますが、大きく「漢字・語彙などの知識問題」「授業で扱った文章の問題」「初見問題」の3つに分けられると思います。

事前に対策しやすいのは前半の2つで、知識系は覚えられるまでただひたすら白紙に書いていました。

既出の文章は、大まかな話の流れや論理の展開を頭に入れた上で試験に臨んでいました。

【古典】

古典に関しては、基本的なところは現代文と共通していると思います。

少し違うのは既出の文章の対策方法で、ただ話の流れを押さえるだけでなく、授業中に先生が重要と言っていた助動詞の表現などについて、しっかりと覚える必要があります。

授業をしっかりと聞くことはもちろん、試験に備えて大事なところはオレンジペンで書き、試験前に暗記シートを使って覚えるようにするとやりやすいでしょう。

【社会（世界史）】

今回は社会科の中でも特に世界史について書きます。

世界史は「大まかな流れを押さえる」「用語の暗記をする」の2つを同時に進めていく必要があり、どちらか一方が欠けていては意味がありません。流れを押さえるのは、自分1人の力で行うのは大変難しいため、授業や塾の先生の話をよく聞いてそれをもとに自分でまとめるなどして押さえます。

暗記は、逆に自分との戦いです。

覚え方は人それぞれですが、試験範囲の用語をただひたすら、白紙がびっしり埋まるくらい書くというのを、全体として3周行うというのは最低限やって試験に臨んでいました。